

環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会  
IMBeR 小委員会 (第 25 期・第 2 回)

日 時 令和 5 年 8 月 7 日 (月) 10:00~12:00  
会 場 ZOOM 遠隔会議による

議事要旨

(1) 議題案承認： 承認された

(2) IMBeR の活動状況

- International SSC： 齊藤委員長より現在の科学運営委員会活動、運営委員会メンバー構成、主な活動および今後の計画が説明された。SCOR のサポートが 2024 年 3 月で終了し、カナダにおける国際事務局が閉鎖されるため、事務局は中国の一か所となる。IMBeR と目標が重なる、国連海洋科学の 10 年への IMBeR による貢献について説明された。また、IMBeR が、平等と多様性の方針により運営されていることが説明された。
- ESSAS および JSPS 特別推進費「東南極周辺南大洋の環境変化と生物地球化学循環・低次生態系の応答」： 齊藤委員長より、今年度の ESSAS 年次会合などの活動および来年度以降の活動計画が、原田委員の用意した発表資料に基づき報告された。
- JSPS Core-to-core CREPSUM「持続的な東南アジア海洋生態系利用のための研究教育プロジェクト」： 齊藤委員長より現在までの、出版、アウトリーチ、トレーニングワークショップ等の研究活動が紹介された。併せて、現在の科学者ネットワークを維持発展させるため、東大海研に東南アジア連携研究室が設立されたことが報告された。
- 黒潮研究に関する活動 (CSK-2, SKED)： 齊藤委員長より、JAMSTEC の安藤専門部長が主導している IOC/WESTPAC (政府間海洋学委員会/西太平洋に関する政府間地域小委員会) による CSK-2 (黒潮とその周辺海域第 2 次共同研究)、および黒潮域において行われた SKED (我が国の魚類生産を支える黒潮生態系の変動機構の解明) に関する成果と残された課題について説明された。
- PICES/ICES・Future Earth： 牧野委員より Future Earth における OceanKan に関する活動が報告された。

(3) 白鳳丸航海

- 中・東部北太平洋南北断面観測による生物地球化学・生態学の統合研究 (小川浩史 2025.7-8)
- 東部インド洋における海洋物理・生物地球化学・生態系の統合的観測研究 (升本順夫 2024.8-9)
- 冬季黒潮での乱流と熱・栄養塩・稚仔魚輸送過程 (安田一郎 2025.02)

上記 3 航海の計画について、小川委員および齊藤委員長より説明があった。採択日数により当

初計画から変化した観測域、インドネシア 200 海里域の観測における許可申請過程、計画立案のため大気海洋研究所共同利用シンポジウムが開催されることが報告された。

伊藤委員より、白鳳丸の次期 3 か年（2026-28 年度）の公募が来年度行われるので、IMBeR からの積極的な提案を期待しているとの発言があった

#### （４）その他の研究航海情報（海洋大、SOLAS 新青丸、みらい、他）

齊藤委員長より、海洋大の橋濱准教授が推進している汐路丸による亜熱帯モニタリング研究、JAMSTEC の調査船“みらい”により 2023 年秋に行われる GO-SHIP 航海について報告された。また、西岡委員より、白鳳丸による GEOTRACES 航海および SOLAS 航海の概要が報告された。

#### （５）社会科学課題

BBNJ： 2023 年 3 月に、海洋の生物多様性に関する条約である「国家管轄権外区域の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する国連海洋法条約の下での協定」が国連で採択された。この合意形成にいたる議論過程、海洋遺伝資源へのアクセスと得られる利益配分および海洋調査、漁業、保護区の設定など海洋科学や調査活動に影響を及ぼしうる点等についての説明が八木委員よりなされた。清田委員および脇田委員から、公海域における具体的な保護対象等についての質問がなされ、八木委員より、合意に至る議論においては法的な問題に関する議論が中心であり、具体的な対象についての精査はまだなされていないことが説明された。BBNJ 条約は、公海における科学活動への影響が及ぶ可能性もあることから、小委員会としても今後の批准および実行過程について注視していくこととした。

#### （６）その他の研究活動

- BioGeoSCAPES： 鈴木委員より 2025 年からの開始を目指している、海洋生物の代謝と代謝を制御する生元素、微量金属等に関する研究である BioGeoSCAPES の計画について説明があった。海洋における機能遺伝子の時空間的変動を明らかにし、omics により次世代の生態系モデルを構築していく。第一回の科学会議が 11 月に予定されている。
- 牧野委員より、MSEAS（海洋社会－生態系システム）の国際会議が 2024 年 6 月に開催されること、北太平洋科学機関等による、国連海洋科学の 10 年に貢献するプログラム“SmartNet”（Sustainability of Marine Ecosystems through global knowledge networks）についての活動に関して報告された。
- 脇田委員より、UNESCO/IOC の西太平洋に関する政府間地域小委員会（WESTPAC）において、海洋空間計画に関する研究活動が進められており、国連海洋科学の 10 年の Action として認定されたことが報告された。

（７）第 26 期の活動について： 齊藤委員長より、IMBeR 発足以来の活動内容や国内外における研究活動の経緯が報告され、また、若手および女性研究者を包括した研究計画の必要性が示さ

れた。国内では、特に学術分野横断的な調査船観測の計画、実行に大きく貢献してきており、その成果を活用した社会問題解決に関する研究が進んでいる。第26期においては、今までの活動を推進すると共に、中堅・若手研究者が中心となる運営体制をとることの必要性が提案され、承認された。

(8) 議事要旨の提出に関する委員長一任について： 議事要旨案を委員が確認した後に、委員長が学術会議に提出することが承認された。

(9) その他： 西岡委員より、大規模鉄散布に関する国際研究計画に関する紹介があった。IMBeR小委員会としても、この計画を注視し必要に応じて対応していくこととした。